

はじめに

1. 多様な意見を取り入れた計画策定

とりで未来会議の開催

多種多様な意見を計画策定に活かすとともに、よりよい取手市の未来を一緒に創っていこうという気運を共有するため、市民参加による「とりで未来会議」を開催しました。

「とりで未来会議」はチームごとに、ワークショップ形式で進められ、途中メンバーを入れ替えることで、参加者同士が多様な意見に触れながら、真剣に取手市の未来を語り合いました。



とりで未来会議（取手）

開催日：令和5年7月29日（土）

内容：地域のつながり、市民参加の場の充実が評価される一方、若者の少なさ、若者へのPR不足が課題として指摘され、取手駅周辺の利便性の向上や特産品のPRに今後の期待を託していました。





とりて未来会議（藤代）

開催日：令和5年8月6日（日）

内容：「自然と都市機能のバランスがほどよい魅力」とする一方、少子高齢化や移動手段の不便さが指摘され、市だけでなく自分たちも意見や市の魅力を発信すべきという積極的な考えが出ました。



とりて未来会議（市長と職員）

開催日：令和5年7月14日（金）

内容：「子育て」・「DX」・「環境」・「魅力創造」の4つのテーマに沿って、市長と市職員と一緒に現状と課題、その解決策を模索しました。





とりで未来会議（高校生）

開催日：令和5年7月24日（月）

内容：次世代を担う高校生が、取手の良いところ・悪いところを評価し、様々な対策を積極的に提案しました。テーマ①とテーマ②でそれぞれチームを入れ替え、普段は別々の高校に通う生徒たちが、協力し合って未来の取手のために何をすべきか議論しました。

テーマ①

取手の良いところ（魅力）、悪いところ（課題）を挙げ、良いところを伸ばすためのアイデアと悪いところを改善するためのアイデアについて意見を出し合いました。

テーマ②

10年後に若者が住みたくなるためにはどのようなアイデアが必要で、そのアイデアを実現するためには誰がどのようにやると良いか意見を出し合いました。



【参加者の声】

- 今回のワークショップを通して、取手市の計画をより詳しく知ることができました。特に、私たちが将来について考えることで取手市がより活性化していければと思います、これからもこのようなイベントがあれば参加したいです！
- グループの人から、取手だけでなく藤代との違いも聞いたので面白かったです。
- 普段、関わることのない他校の方々とたくさんお話できたのでとても楽しかったです！こういったイベントを行うことは、新しい発見ができるとても良い機会だなあと感じました！ありがとうございました！
- 誰かと意見を共有することによって新たな発見が生まれる面白さを十分に感じました!!





取手市の概要

取手市は、茨城県の南端に位置し、市域は総面積69.94平方キロメートル、東西14.3キロメートル、南北9.3キロメートルであり、利根川とその支流である小貝川の二大河川が流れる水と緑に恵まれた地域です。

茨城県の南部の玄関口としてばかりでなく、東京、成田、つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置していることから交通の要となっており、首都圏の都市の中でも、交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境をもっています。

面積	69.94 平方キロメートル
人口	105,971 人（住民基本台帳登録人口・令和5年10月1日現在）
アクセス	鉄道 JR 常磐線で上野駅から約 40 分
車	常磐自動車道谷和原 IC より約 20 分





取手市民憲章

わたくしたちは、利根川の豊かな流れと小貝川の清流、太陽あふれる広い空、澄んだ空気に恵まれ、歴史と伝統にはぐくまれた取手市民です。

わたくしたちは、取手をふるさとにもつことを誇りとし、みんなが心をひとつにして、明るく住みよい文化の薫るまちを築くため、明日への願いをこめて市民憲章を定めます。

わたくしたちは

- 1 自然を愛し、水と緑をまもり、やさしい環境をつくれます。
- 2 のびやかな心とじょうぶな体をつくり、教養を高めます。
- 3 力を合わせ、助け合い、思いやりをもち、人の和を広げます。
- 4 家庭を大切にし、きまりをまもり、仕事や勉強にはげみます。
- 5 いつも平和を願い、文化芸術と伝統を大切にし、夢と希望のあるまちをつくれます。

市の木



モクセイ



ゲッケイジュ

市の花



ツツジ



フジ

市の鳥



フクロウ



カワセミ

平成17年10月1日制定

